

粕川

粕川地区青少年健全育成会 粕川子ども芸術展

第2回粕川子ども芸術展の作品展示会を行います。応募作品は、写真、絵画、科学、発明・工夫の各部門にわたり、力作が揃いました。展示会の日程は、以下のとおりです。

●日時=令和5年2月10日(金)～16日(木)

9時～17時 ※16日のみ15時まで

●場所=隣保館(西田面192-1)

また、「前橋の子どもを明るく育てる活動地区別会議」で、家族をテーマにした作文を募集しました。地区内各小中学校代表児童の作文も、併せて展示を行います。ぜひ、一度お越しください。

書き損じはがき お持ちください

前橋ユネスコ協会で、ユネスコ・世界寺子屋運動の一環として、「書き損じハガキ」を回収しています。(ハガキは未投函のものに限ります。)

令和5年2月24日(金)まで、公民館事務室前に回収箱を置いておきます。ご協力をお願いします。

●時間 平日=8時～17時15分

土日祝=10時～17時

高齢者の交通事故が増加しています

11月から12月中旬にかけて、群馬県内で高齢歩行者が亡くなる交通死亡事故が多く発生しています。群馬県内では、1か月半の間に11人の方が交通事故により命を落としており、11人の方のうち9人の方が高齢者でした。

車を運転する際は

○歩道にいる歩行者が道路を渡るかもしれないなどと、危険を予測した「かもしれない運転」を心がけましょう。

○速度を控えて、安全運転を心がけましょう。

○夕暮れ時は早めにライトを点灯しましょう。

○対向車が来ない時は、ライトをハイビーム(上向き)にして歩行者等を早めに発見しましょう。

自転車を運転する際は

○夕暮れ時は早めにライトを点灯しましょう。

○自転車は左側通行が原則です。ルールを守って交通安全に努めましょう。

○ヘルメットをかぶって、万が一の交通事故に備えましょう。

歩行者のみなさまは

○夕暮れ時や明け方の暗い時間帯は、反射材やライトなどを持って、車から目立つ格好を心がけましょう。

○道路を横断する際は、左右をよく見て車が来ないか確認しましょう。

粕川公民館 自主学習グループ紹介

興味のある方は公民館(285-3311)までお問い合わせください。

粕川読書クラブ

●毎月第3火曜日 ●午後1時30分～3時30分

読書会では、毎月第3火曜日に例会を開いておられます。課題図書を選定し、各自感想を述べ討論を行っています。

和気あいあいの時間を過ごします。読書クラブに入りませんか。歓迎しております。

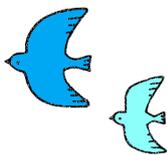
かすかわ歌吟倶楽部

●毎週水曜日

●午後1～5時、午後6時～10時(隔週)

歌謡曲、歌謡吟詠等の習得に努め、会員相互の親睦を図るため、毎週水曜日粕川公民館にて実施しています。

小学生の 人権作文を紹介



「人権について」

すとう ゆい

月田小6年 須藤 結衣

わたしは、人権集中学習期間を通して、改めていじめはいけない、なくさなければいけないものだと感じました。また、自分だけでなく他の人のことも考えることが大切だと思いました。

まず最初に校長先生からのお話がありました。その内容は、ふわふわ言葉とちくちく言葉についてのお話でした。ふわふわ言葉とは、相手がうれしい気持ちになる言葉です。また、ちくちく言葉は、相手が傷つくかなしい気持ちになる言葉です。わたしは校長先生の話聞いて、ふわふわ言葉を忘れず、たくさんの人に言いたいと思いました。そして、ちくちく言葉はあまり言わないように心がけようと思いました。

次に児童委員会からあいさつについての呼びかけがありました。わたしは児童委員として、あいさつ運動をしています。始めのうちは、やりたくないな、めんどくさいなと思っていたけれど、あいさつしたら、相手も自分もうれしくなる、気持ちよくなるということに気づき、積極的にあいさつをしていきたいと思うようになりました。

また、人権ビデオ「毎日がつらい気持ちわかりますか」というビデオを見ました。このビデオを見て、目に見えなくても傷ついている時もあるし、一人で困っていることもあるから、周りをよく見ようと思いました。もし、自分がいじめられていたら、いじめを見ている側

だったら助けられていたのか、だれかに相談できていたのか、よく考えておきたいと思いました。そして、言葉にするのはかんたんでも行動するのはむずかしいので、注意できる、相談できる勇気をもっていたいと思いました。

最後に人権の本「私には夢がある」を見て、どの国で生まれても、肌の色がちがくても、みんな平等に幸せに笑って生きれる世界になればいいと思いました。人種差別やいじめは、自分のちょっとした気持ちから起こってしまうものだと思うので、人の気持ちも考えて接していこうと思いました。

このように人権集中学習期間を通して、たくさんのごとに気づき、学びました。これからも、相手の気持ちや考えを理解して、行動していきたいと思いました。そして、一人一人幸せに生きるけんりを忘れずに、過ごしていきたいと思いました。

※学年は令和3年度時です。

プチ人権コーナー

「人権啓発リーフレット『やさしい心』より

【障害者】「ノーマライゼーション」理念に基づき、さまざまな分野においての整備や、障害者の自立と社会活動等への参加を促進する取組も進められています。しかし、どんなにバリアフリー化が進んでも、一人ひとりの「心のバリア」を取り除かなければ障害者に対する理解は広がりません。障害を人それぞれが持っている個性の一つとして捉えることが重要です。

隣保館 NEWS

隣保館

粕川町西田面192-1

☎ 285-5534

FAX 285-5541

○粕川保育所子育て支援センター「さくらんぼクラブ」（会場は隣保館）

① 2月7日（火）① 9時45分～10時45分
② 11時～12時

育児講座「手形アート」 親子各5組

② 2月8日（水）① 9時45分～10時45分
② 11時～12時

育児講座「手形アート」 親子各5組

③ 2月14日（火）10時30分～11時30分
育児講座「アロマ体験」 親子5組

子育て中のお母さんをはじめ保護者の皆さんには、子育ての息抜きとおしゃべり場として楽しんでください。その他の日は、粕川保育所子育て支援室での活動となります。ぜひお気軽に遊びに来てくださいね。（問い合わせ・申し込み先）子育て支援センター 電話 285-2107

○小学校の人権標語作品の展示

粕川小学校、月田小学校の代表句（30作品）を3月10日（金）まで隣保館ロビーに展示しています。みなさん、ぜひ見に来てください。



粕川支流大猿川の源流を訪ねる5

【湯の口川】

湯の口水原地から流れ出た清流は、湯の口川を流れ広域農道の地下を通り、山際の水路を流れ旧湯の口発電所跡道路西側の沢に流れ落ち、大猿川に合流している。

【湯の口発電所跡】

湯の口川を利用して、旧粕川村大字膳船戸忠治郎氏が発起人となり、湯の口発電所を建設した。大正10年6月には粕川村を始め赤城南麓の村々に送電が開始されて、電灯を灯す事ができた。

当時の発電所の出力は、平時で45・85キロワットで、渾水時は27・20キロワットであった。

昭和22年9月15日のカスリーン台風の甚大な被害を被り、復興出来なかった。小河川で有ったが、赤城南麓の農村地帯の文明開花に貢献した湯の口川を導水した発電所であった。

【赤城神社西宮故地】

このマス釣り場の西側の道路を北に向かい坂を登ると、広域農道に出る。それを右に暫く行くと、緩やかな下り坂を下り切ると緩や

かなカーブとなるその位置から、北に200メートル位山の中に入った所に湯の口川の水源地がある。周辺を見渡すと削平された所や石垣などが見当たり、赤城神社の西宮の故地と伝えられる、雰囲気は彷彿させる。

古老の話ですと、小沼と月田との中間に元三夜沢と称される地があり、粕川村大字室沢字湯の口(前橋市合併前に属し、付近は俗に御殿と言われる地も存している。現三夜沢の東2キロメートル強の場所、粕川の左岸で流れよよりやり少々引き込んでいるが、略略その流域と考えてよからう。三夜沢の赤城神社には既に元三夜沢より移転したとの伝承が有ったものと思われる。

「山吹日記にも(もとの宮あり)し所はいま本三夜沢と呼んで、是より一里はかり東かたにあり」と記している。即ち赤城神社は元三夜沢に有ったと一般に考えているのである。

その真偽は別として、兎も角も元三夜沢には何らかの神社の存在を肯定すべき地と考えられるのである。元三夜沢地に西宮を配して考えた場合、小沼・元三夜沢(御殿)・月田(神社)と一連の信仰系統が成立し、首肯し得るのである(勢多郡誌)

粕川村誌には明治十一年一月三

十一日付、室沢戸長、小池藤造が県令楫取素彦に出した報告書記載して、「赤城山神社跡本村北方字御殿と言所にあり、東西四十五間、南北三十五間面積五反二畝十五歩、本村より一里十八町に有り。但し赤城神社の三夜沢へ御遷座は桓武天皇御代の頃と言ひ伝えあり、年号支干詳しからず」詳細に記してあるが、これは、伝説として残って有るものに過ぎないと、記している。

【湧水や水源祭祀遺跡】

湧水と神社との関係については、水の神とのより限定的に言えば水源湧水にまつわる神だと思える。生命を維持するために不可欠ですから、水が大切なのは当然ですが、特に湧水である事が、大切だ。(縄文神社)

湧水場での祭祀は縄文時代から弥生・古墳時代頃まで連続と行われていた様である。

昭和56年上越新幹線の新設工事で、古墳時代の首長の居館遺跡が三ツ寺で検出された。遺跡地は川に接した湧水があり、出土遺物により既に5世紀前半には湧水に対する地域祭祀が開始されていた事が判明している。弥生時代から水の祭祀が行われていた様だが、古墳時代になると各地で水源祭祀が行われた遺跡の検出が多くなる。

神社は漢語で和語ではない神社の語が使い始められたのが、早くても神亀2年(725)頃で、本格的に使われ始められたのは宝亀8年(777)の詔や太政官符からだ

という。

古くからは和語として宮・社が使われていた。神社になるまでの経過を見ると湯の口湧水地周辺に祀られた小さな祠が宮になり、赤城神社西宮に発展した可能性が窺える。

古代から水と人々の生活は、密接で必要不可欠なものとして、神と崇め奉っていた事を再考させられた。

湯の口川は、小河川であるが、地域発展に多大な影響を及ぼした湯の口水原地を訪ね伝える事ができ安堵した。

(前橋市文化財保護指導員 宮崎高志記)

▼主な参考文献
 【勢多郡誌 勢多郡誌編纂委員会】「粕川村誌 粕川村」【粕川明治百年史 粕川村百年史編纂委員会】【宮城村誌 宮城村誌編纂委員会】【神社の起源と歴史 新谷尚紀 吉川弘文館】【古代神社と神職 加瀬直弥 吉川弘文館】【縄文神社 武藤 郁子 飛鳥新社】【山と里の信仰史 宮田 登 吉川弘文館】【神社に隠された大和朝廷統一の秘密 武光 誠 河出書房新書】【山に立つ仏と神 松崎 照明 講談社新書】【東国から読み解く古墳時代 若狭徹 吉川弘文館】【古墳時東国の地域経営 若狭徹 吉川弘文館】【古墳の話 尾崎喜左雄 学生社】



湯の口川湧水地

人権標語

● 価値観や個性を認める 共生社会

今川 果音 (粕川小6年)

小学校児童の標語をご紹介します。(敬称略)

● 悪口は聞いてる人も 傷付くよ

中島 玲奈 (粕川小6年)

※学年は令和3年度時です。

令和4年度の「第2回粕川元気まつり」ステージ発表で『女瀧御霊神社太々神楽』が、粕川地区の伝統芸能として披露されました。今回『女瀧御霊神社太々神楽』について、活動の一端をご紹介します。

女瀧御霊神社太々神楽

〈市指定重要無形民俗文化財 昭和43年9月1日指定〉

女瀧地区の御霊神社太々神楽は、明治10年（1877）に大胡神社の社掌、奈良原繁造氏により伝授された里神楽であります。毎年、春と秋の御霊神社の例祭で、式舞5座、愛嬌舞2～3座を奉納しています。

娯楽の少なかった時代には、市が立つほどの賑わいを見せており、子ども達の間では「とーひゃらっこ」の愛称で親しまれた神楽です。

演目は以下のものが伝承されています。

〈式舞〉

へんばい 四神 うずめの舞 磐戸開き 翁の舞
両人の舞 かごつち 弓矢 ぞう儀

〈愛嬌舞〉

魚釣りの舞 叩き出しの舞 玉取の舞 種蒔きの舞
上棟の舞 大蛇退治の舞 鍛冶屋の舞

現在では、伝承が途絶えて演じることができない舞もあります。

そもそも太々神楽は、古代、天照大神が磐戸へお隠れになった時に、神々たちが種々の舞曲を演じて、大神をお諫めになったところ、大神もその面白さにお顔をお出しになったという古事にちなんだ古典芸能とされています。

御霊神社では、午前の式典が終わり午後には神楽が奉納されます。神楽は、舞子連（舞方9名、囃子方4名、計13名）で継承しています。

平成18年頃からは、小学生の女子も参加し、「四神」の舞を奉納しています。令和4年度は、3年ぶりに秋の例祭で神楽の奉納や自治会が作成した紙芝居「御霊神社と太々神楽」を地域の皆様に披露しました。

今回は、神楽の道具や練習について紹介します。（竹市富夫 記）



愛嬌舞でお菓子をまく



小学生による「四神」の舞



前橋市立図書館 粕川分館だより 今月の新刊ご案内

休館日

2/2 (木)・9 (木)・16 (木)・24 (金)
3/2 (木)・9 (木)・16 (木)・23 (木)・
30 (木)

《一般書》 ●高倉健沈黙の演技（野地秩嘉） ●がんばらない敬語（宮本ゆみ子） ●継続するコソ（坂口恭平） ●成熟スイッチ（林真理子） ●グッゲンハイムの謎（シヴォーン・ダウド） ●アイドル失格（安部若菜） ●ひとり旅日和 4（秋川滝美） ●青の刀匠（天沢夏月） ●陽だまりの果て（大濱普美子） ●教誨（柚月裕子）

《児童書・絵本》 ●うさぎのモニカのケーキ屋さん（小手鞠るい） ●うさぎとハリネズミきつとあえる（はらまさかず） ●いちねんじゅうおばけずかん（斉藤洋） ●かいけつゾロリきょうりゅうママをすくえ！（原ゆたか） ●グレッダのダメ日記なんだって、やってやる！（ジェフ・キニー） ●あんぱんまんとばいきんまん（やなせたかし） ●おばけのしかえし（内田麟太郎） ●ぐいーん！こうしよさぎようしゃ（竹下文子） ●にじいろのさかなとおはなしさん（マークス・フィスター） ●ねずみくんだーれだ？（なかえよしを）

【おひさまクラブによる読み聞かせお知らせ】1月28日（土）、2月25日（土）、3月25日（土）
時間＝午後3時～3時30分

●市立図書館粕川分館 ☎027 (285) 3312

●開館時間 < 平日 > 午前10時～午後6時 < 土日祝 > 午前10時～午後5時

■発行日 令和5年2月1日発行
■編集発行 粕川公民館 〒371-0217 前橋市粕川町西田面194-4
TEL 027-285-3311 FAX 027-230-6063
ホームページ <http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
→ 公民館 → 粕川公民館



WEB-SITE

